

漁況予報 い わ し

第185号

【2014年9～10月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月は120トンと前年(98トン)及び平年^{※1}(78トン)を上回りました。続く8月も112トン(速報値)で、前年(26トン)及び平年(102トン)を上回りました。

まき網は東京湾側では漁獲がありませんでしたが、相模湾側では1ヶ統が20トンの水揚げし、1ヶ統が断続的に餌イワシとして漁獲しました。

魚体は、7月が被鱗体長^{※2}(以下同)10-13cm、8月が13-14cm主体で、これは2014年生まれの当歳魚で、春生まれのマシラス(マイワシ仔魚)が成長したもので、今後さらなる漁獲を期待したいところです。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月は303トンで、前年(122トン)及び平年(188トン)を大きく上回りました。ただし、このうち9割方は鎌倉地区2ヶ統で漁獲されたもので偏った分布となりました。続く8月も116トン(速報値)で、不漁の前年(0トン)及び平年(26トン)を上回りました。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は8月上旬まで餌イワシとして断続的に漁獲し、佐島地区(1ヶ統)では2ヶ月計130トンの水揚げがありました。

魚体は、7-8cmの未成魚主体でした。

【シラス】

6月は相模湾東部～江ノ島周辺にかけて平年並みで推移したシラス漁ですが、7月に入ると江ノ島周辺の漁模様はまずまずだったものの、他の地域では軒並み前年・平年以下の漁獲水準で推移し、結局7月の全体漁獲量(標本船データより推定)は前年・平年割れとなっていました(前年比0.9倍、平年比0.8倍)。

8月に入ると、茅ヶ崎以西では平年並みの漁獲水準だったものの、7月とは逆に江ノ島周辺での漁場形成が不安定だったことが響き、全体漁獲量は7月同様、前年・平年割れとなりました(前年比0.9倍、平年比0.7倍)。

なお、9月に入り新仔が来遊してきた模様で、小シラスも混じるようになっていきます。

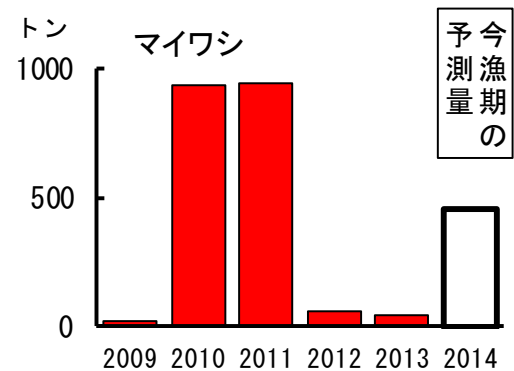
= 予 報 =

過去5年の9・10月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2014年生まれの小羽マイワシ（13～15cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年を大きく上回る約450トンと予測されます。

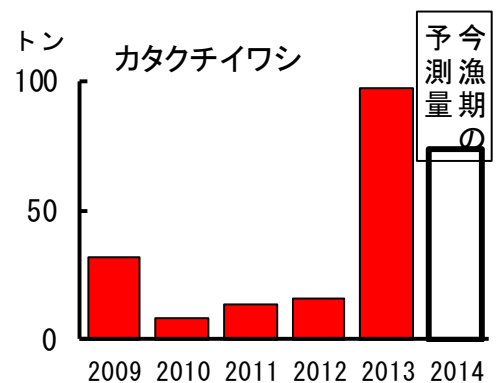


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前期の定置網での漁獲状況から、前年をやや下回る約74トンと予測されますが、まき網の漁獲努力がマイワシに向けられた場合はさらに下回るでしょう。

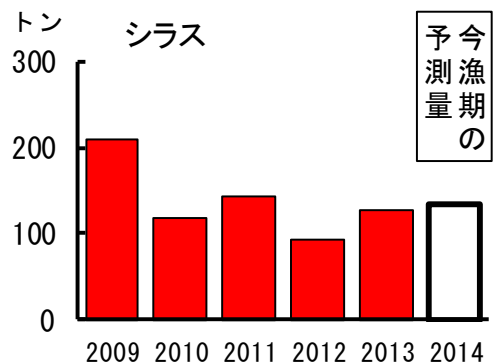


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、7月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、7～8月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年並みの約133トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2313



2014年8月6日 相模湾の定置網に入網した小羽マイワシ